



全国から注目を集める 長門湯本温泉 観光まちづくりの取組



▲ そぞろ歩きを楽しむ人々にぎわう温泉街



▲ 若者や家族連れが訪れ、客層が若返っている

温泉街の 再生プロジェクト

長門湯本温泉では、持続可能な温泉地となるために「人気温泉地ランキングトップ10入り」を目標にして、平成28年から観光まちづくりに取り組んでいます。

地域・事業者・行政が一体となって取り組む温泉街の再生プロジェクト。2年前にハード整備が完了し温泉街が全面リニューアル。ここから本当の観光まちづくりがスタートしましたが、リニューアル後のわずか2年の間に、全国レベルの表彰を5つも受賞しています。

公民連携での取組が 高く評価される

令和2年10月、2020年度グッドデザイン賞の受賞をはじめ、さまざまな分野で賞を受賞している長門湯本温泉。最近では冬のライトアップイベント「音信川うたあかり」がふるさとイベント大賞優秀賞を受賞するなど、公民連携で進んでいる観光まちづくりのしくみや取組が高い評価を得ています。

大臣賞を受賞

2020.2

地方創生大賞

2020年度ふるさと名品オブ・ザ・イヤー

「地域住民が参画し、企業とも共同してすばらしいまちをつくりあげています。今年はコロナで観光客も少なかったかもしれませんが、今後の展開が楽しみです。」

審査員 増田 寛也 氏
(元総務大臣・前岩手県知事、日本郵政株式会社代表執行役社長)

魅力的な
21世紀の温泉街

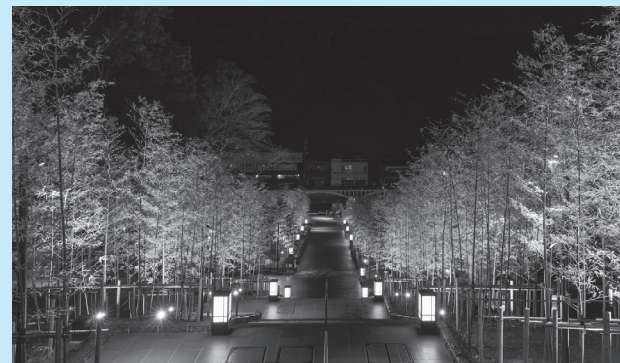
2021.6

優秀賞

令和3年度都市景観大賞

国土交通省の後援をうけ、良好な景観に資する普及啓発活動の一環として実施されている約30年続く表彰です。

長門湯本温泉は都市空間部門で全国3位となる優秀賞を受賞しました。



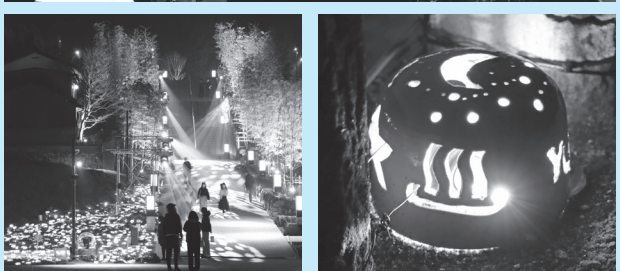
スケールの大きい
受賞作品の数々

2021.12

土木学会デザイン賞 2021
最優秀賞

今回、受賞した作品をみると「高田松原津波復興記念公園 国営追悼・記念施設」(岩手県陸前高田市) など大規模な事例ばかり。過去には、下関市・角島大橋が優秀賞を受賞しています。

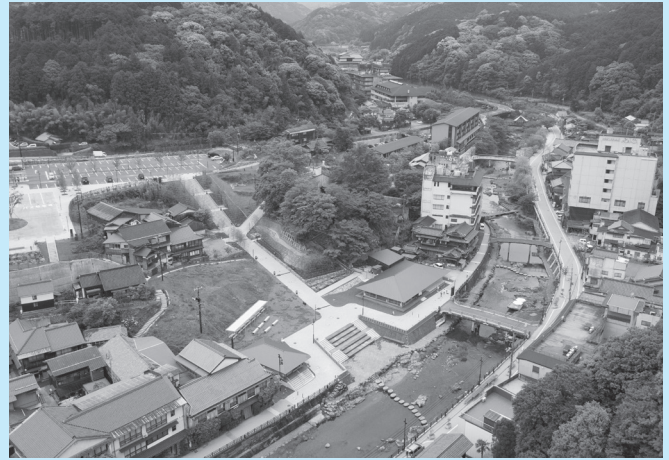
小さな温泉街で地域・事業者・行政・専門家が丸となって行う取組が高く評価されました。



60年以上続く
総合的なデザインの表彰

2020.10

2020年度グッドデザイン賞
「街区・地域開発」 カテゴリー



地域絵出の
あかりのイベント

2022.2

ふるさとイベント大賞
優秀賞

金子みすゞさんの詩をテーマにしたあかりのイベント。詩と光の演出、そして、市民や子どもたちが絵出でイベントに関わっている点などが高く評価されました。温泉街のリニューアル前にはあまり見られなかった若者が夜のそぞろ歩きを楽しむシーンも。

長町志穂さん
LEM 空間工房代表・照明デザイナー

冬季の魅力づくりはもちろん、リニューアルした温泉街が、観光客だけでなく市民の皆さんにとって思い出となる場所になってほしいと思い、演出を考えました。

歴史・伝統ある表彰であると同時に、受賞したどの事例も長年の取組に支えられた著名なものばかりですが、そうした中、肩を並べて表彰されている長門湯本温泉。

観光まちづくりの取組が本格的にスタートしてから約2年。過去の受賞事例に比べ非常に短い期間での取組が評価されています。

**客層の変化
若者が訪れる温泉街に**

温泉街のようすも変わっています。そぞろ歩きを楽しむ人が増えたことはもちろん、若者や子ども、家族連れなどリニール前にはあまり見られなかった若年層が温泉街を楽しんでいます。地元の人にも「若い人の姿をよく見かけるようになった」とうれしい変化を実感しています。

そぞろ歩きを楽しむための温泉街を目指していることで、若い世代からも選ばれる温泉地になってきました。

全国から、そして幅広い世代から、注目が集まっています。



なぜ？
長門湯本温泉が
注目を集める理由

どうして長門湯本温泉が全国で評価され数々の賞を受賞しているのでしょうか？なぜ若者が訪れるまちになったのでしょうか？

その理由を長門湯本温泉まち株式会社エリアマネージャーの木村隼斗さんに聞きました。

／インタビュー／



木村隼斗さん
長門湯本温泉まち株式会社
エリアマネージャー

なぜ多くの賞を受賞し、評価されているのでしょうか？

長門湯本温泉が取り組んできた「観光まちづくり」が、多くの関係者の力を結集した取組だからだと思えます。地域・事業者・行政が一体となり、各分野の専門家の力も活かしながら、計画から丸6年かけて取り組んできたことをさまざまな方面から評価していただきました。

関係者の一員として本当に嬉しく感じています。

「観光産業史に残る奇跡の取組」といった意見もありましたね。

まちづくりには、本当に多くの人が関わることになりました。このため、時間をかけて目標像を共有し、課題を出し合いながら将来に向けて進んでいくことが必要です。

長門湯本温泉でも、地域住民の皆さんの多大なご協力の下、ワークシヨップや社会実験を何度も何度も繰り返してきました。これらの取組の積み重ねが、そぞろ歩きに適した空間づくりや夜間情緒を含めた景観形成に具体的に活かされています。

さらに、地元を中心に恩湯や飲食店などの民間事業がしっかりと生まれていることは、どこにでもできることではないと思います。

若い人や家族連れの姿も見かけるようになりました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、厳しい時期が続いているのも本音ですが、そぞろ歩きが楽しい自然豊かな温泉街を楽しみむ姿は、確実に増えてきていると実感しています。

飛び石を楽しむように飛び観光客の姿につられて、地元の子ど

もたちも広場を駆け回ってくれるのが嬉しいですね。

飛び石や川床など新しい魅力が生まれたおかげでしょうか？

新しい魅力に注目してしまいうことになるのですが、地域の活動でずっと守られてきた音信川の環境、温泉街の関係者が毎月実施している植栽管理などの積み重ねがあつてこそその魅力なんです。

また、行政が河川や道路の利活用をルールの下でしっかり認めていることも、全国でも珍しいことなんです。

音信川うたあかりも多くの人が訪れ、大盛況でしたね。

これもまさに、地域・行政・事業者の力が結集したイベントです。学校や文化施設の関係者



▲ 地元で環境整備されてきた温泉街、今も協力して清掃などを行っている



▲ うたあかりの準備や片付けも地域・事業者など関係者が協力して行う

の皆さんには本当にお世話になりました。どれが欠けても実現できません。こうした取組を重ね、「あかりのうつわ」作りに参加してくれた子どもたち一人ひとりとつとて、長門市や長門湯本温泉街が思い入れのある場になることが大きな財産になっていくと信じています。

これまでの取組の積み重ねが評価され、注目を集めているんですね。これからの取組について教えてください。

5月にはリバーフェスタの開催も予定しています。

安心して迎えられる環境をしっかりと整えて、「オソト天国」長門湯本温泉を多くのの人に楽しんでいただきたいと思います。

観光客が減少し、一時は非常に緊迫した場面を経験した長門湯本温泉。新型コロナウイルス感染症の厳しい状況の中でも歩みを止めず、これからも温泉街の魅力アップに向けて公民連携の観光まちづくりに取り組んでいきます。



温泉街を楽しむ特別な2日間
おとずれリバーフェスタ

今年もマルシェや橋の上のレストランなどを楽しむことができます。イベントが開催されます。

■開催日 5/21(土)・22(日)

■場所 長門湯本温泉街



▲ 昨年も川沿いにマルシェが来店

長門湯本温泉の最新情報は観光公式ホームページでご確認ください。

[https://](https://yumotoonsen.com/)

yumotoonsen.com/

